CS1-2 薬学における研究と薬剤師教育・現状と問題点そして将来？

◯本多　利雄[1]
[1]星薬大

薬学教育制度の改革がなされてからすでに３年が過ぎ、各大学においても学生の将来像を具体的に描かなければならない時期が来た。教育制度は大学間において異なり、国公立と私学でもその対応は大きく異なっている。６年制と４年制学科を併合している大学においては学生の進路も分岐点に差し掛かっている。ところで、近年薬学あるいは薬剤師に関するマスコミの記事を目にする機会が増えてきた。多くの内容はネガティブなイメージであるが、実際はどうであろうか。確かに昨年の薬剤師国家試験の合格者は１万人を超えるものであり、医師や看護師と比較して過剰供給といわれても仕方のない人数である。それでは「薬学」のアイデンティティーとは何であろうか。薬剤師はこれ以上不要なのであろうか。薬剤師の業務はどのようなものになるのであろうか。大学ではどのような薬剤師を輩出する義務があるのだろうか。専門学校と区別化した大学において教育研究を一体どのように進めていくべきか。薬剤師教育において研究は本当に必要なのか。すべての大学において今後も研究を続けることが可能であろうか。研究の質はどのようなものであるべきかといった基本的な諸問題について、現状の問題点を踏まえつつ将来に向けて考えてみたい。また、薬学が将来においても必須な学部か否かも今一度考えてみたい。